8

事 業 概 要 説 明 書

事業名	橋りょうのアセットマネジメント
担当部署	建設局　土木部　道路環境課
事業開始年度	平成21年度
根拠法令等	道路法
実施方法	□直営　■業務委託　□補助金　□その他（　　）
事業概要	さいたま市が管理する橋りょうは、平成24年4月1日現在、979橋である。建設された年が判る529橋のうち、建設後50年以上経過しているものは23橋（約4%）であるが、30年後には408橋（約77%）となる。 多数の橋りょうが老朽化すると、一定期間に集中的に修繕や架替えが必要となり、その費用は莫大なものとなる。また、架替え工事等により交通渋滞が発生することも予想される。 このため、橋りょうの安全性を確保し、維持管理コストの縮減を図ることを目的として、平成21年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、運用しているところである。 本計画は、橋長15m以上の道路橋や、緊急輸送道路、国・県道の橋、主要な市道の橋など、重要橋りょうとして位置づけた270橋を対象としており、計画に基づき、定期的に点検を実施して橋りょうの健全度を把握するとともに、橋りょうの劣化予測の下、計画的に修繕工事を行い、橋りょうを効率的・効果的に維持管理するものである。

事業費

道路橋りょう費　橋りょう維持費　委託料（点検、設計委託）、工事請負費（修繕工事）他

区分		単位	平成22年度（決算）	平成23年度（決算）	平成24年度（予算）
事業費		千円	204,935	196,924	512,700
概算人件費		千円			
総計		千円	204,935	196,924	512,700
財源内訳	国・県支出金	千円	13,839	27,123	21,000
	市債	千円	17,100	37,700	260,100
	その他特定財源	千円	0	0	0
	一般財源	千円	173,996	132,101	231,600

成　果

成果指標		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度
①	橋りょう点検	箇所	293	219	190
	（指標説明）	橋りょうの定期点検を実施した箇所数			
②	橋りょう補修工事	箇所	1	2	5
	（指標説明）	橋りょうの補修工事を実施した箇所数			

8

事 業 概 要 説 明 書

費用対効果	橋梁長寿命化修繕計画では、長寿命化管理の対象とする重要橋りょう270橋を維持するために、今後70年間で必要となる費用について試算した結果、壊れたら架け替えることを前提とした費用は約850億円であるが、長寿命化管理を行うと約540億円となり、約310億円のコスト縮減が見込まれる。（H21年度さいたま市橋梁長寿命化修繕計画より）
現状の課題等	○長寿命化修繕計画の実効性の確保 計画を実効性のあるものにするため、橋りょう点検や補修などの実績を蓄積・反映し、計画の更新をしなければならない。これにより、橋りょうの劣化に伴う補修時期を予測し、計画的な修繕を行なうことができる。 ○橋りょう補修工事の実施 橋りょう補修工事にあたっては、交差する施設の管理者との協議が必要となる。河川の場合は出水期以外の工事となり、工事期間が制限されるほか、鉄道では、その特殊性から鉄道事業者でなければ工事ができないものは委託工事となり、協議に時間を要し、一般の補修工事に比べ費用も高額となる。 ○長寿命化管理対象としていない、「その他橋りょう」の管理計画 全ての橋りょうを長寿命化管理とすることは効率的でないため、本計画では重要な橋りょう270橋を対象としている。「その他橋りょう」についても定期的に点検を実施することとしており、必要に応じて補修を行なうが、計画的修繕ではないため、その都度予算を確保して対応する必要がある。
他市の状況等	全国の道路橋（橋長15m以上）における長寿命化修繕計画の策定状況 （平成24年4月時点） ＜団体数ベース＞ ○都道府県： 策定率 100%（47団体で策定） ○政令市： 策定率 100%（20団体で策定） ○市区町村： 策定率 51%（1,690団体のうち、865団体で策定） ＜橋梁数ベース＞ ○都道府県： 策定率 99%（47,315橋のうち、46,635橋で策定） ○政令市： 策定率 93%（8,863橋のうち、8,278橋で策定） ○市区町村： 策定率 51%（84,881橋のうち、43,084橋で策定） ※国土交通省の資料による

◎論点（審議のポイント）

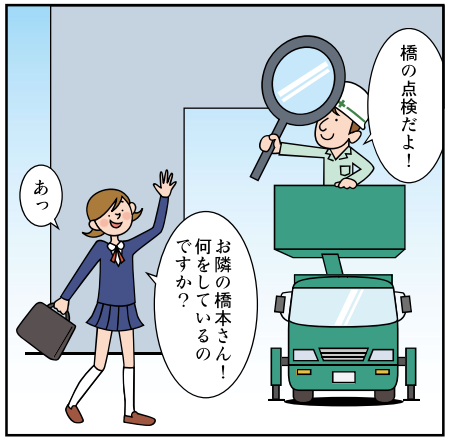
■ 橋りょうの老朽化の現状について

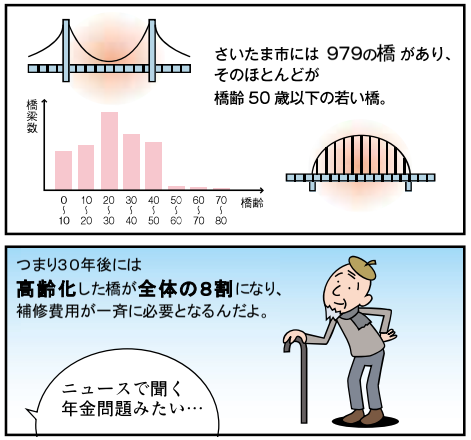
■ 「長寿命化修繕計画」による取組について

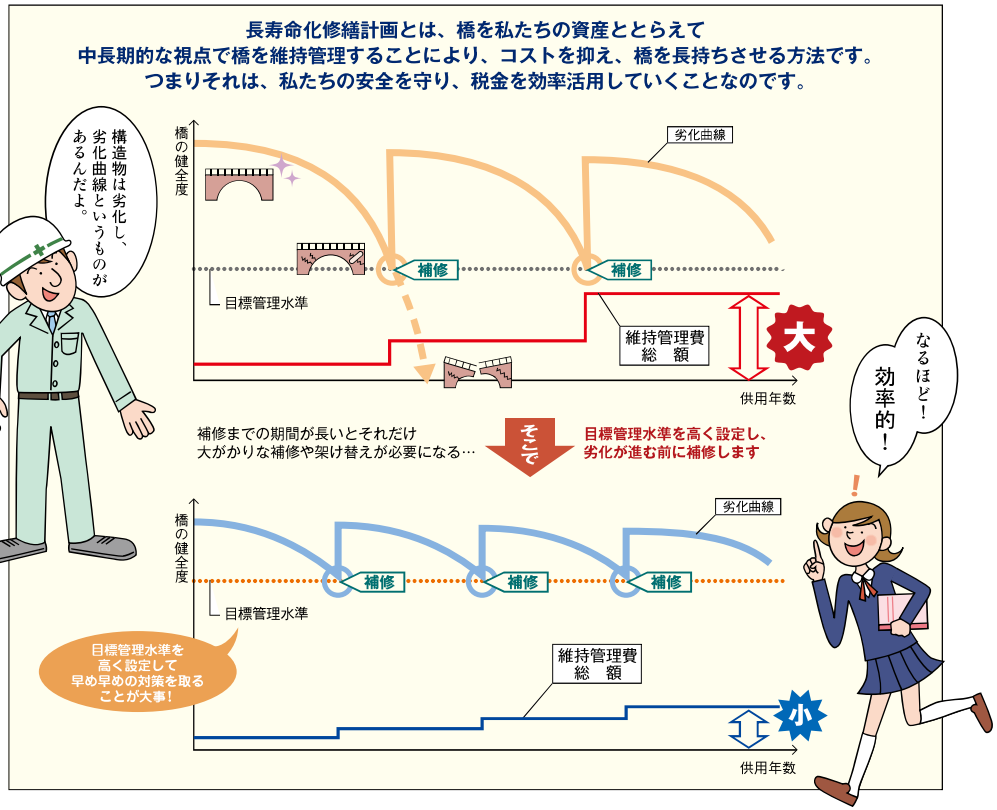
■ 今後の計画の推進について

未来へつなぐ架け橋～市民の安心・安全を守るために～

―― さいたま市の**長寿命化修繕計画**は橋梁の良好な保全を目的としています







一つ一つの橋に対し調査を行ったうえで、①利用頻度の高い橋や避難経路に架かる橋など緊急性を要するか、②いつ、どのような工法の補修が最適か、など様々なことを考慮し、中長期の維持管理計画をたて、実行していきます。

調査点検 → データベース化 → 優先順位の検討 → 橋ごとに最適な補修工法の検討 → 予算の配分計画 → 中長期計画策定 → 実行

定期的に計画を見直して、必要があれば改善を行う

社会資本である橋の延命化、安全性の確保 ＋ **大切な税金の効率的な活用**

公共事業のコスト意識が求められるなか、さいたま市の長寿命化修繕計画は未来へ向けて橋を守るために、効率的・効果的な方法なのです。